

# 地域に根ざした国際理解教育の創造

—— 上海読本「日中の懸け橋となった人々」を生かした教材開発の試み ——

前上海日本人学校虹橋校 教諭

福岡県糟屋郡志免町立志免中央小学校 教諭 相部 智子

キーワード：教材開発、総合的な学習の時間、キャリア教育、道徳

## 1. はじめに

私は上海市にある上海日本人学校虹橋校にご縁を頂いた。中国上海市内には、日本人学校が虹橋校（小学部のみ）、浦東校（小学部・中等部）、高等部がある。平成28年度、上海日本人学校虹橋校は創立30周年を迎えた。虹橋校の子どもたちの数は企業の撤退等の影響から年々減少傾向にあるが、それでも平成29年度は1100人を超えていた。私は平成27年度には4年生、平成29年度には6年生の学級担任をさせて頂いた。3年間の在勤中、先輩方が作成された上海読本をもとに、教材開発を試みた。中でも、平成29年度の教育実践「結～世界をつなぐわたしたち～」は、学年部や中国語教師、そして132人の子どもたちと共に創り上げることができたことがとても感慨深い。ここにその概略を紹介する。

## 2. 実践の概略

### (1) 研究の目的

上海日本人学校には上海読本「日中の懸け橋となった人々」がある。これは、過去の先輩教師たちが日本と中国を結んだ偉大な人々を採り上げ、読み物にしたものである。この読本を生かし、日本と中国において懸け橋として活躍した日本人や中国人を挙げ、どんな時代であっても日中の懸け橋となった先人達のおかげで今があることに気づいていける教材開発をすることを目的とした。

日本国内における中国人・中国文化に対する印象はあまり良いとは言えない。虹橋校は両親のどちらかが中国人の子どもたちも少なくない。将来、虹橋校の子どもたちが中国・日本どちらも愛しみ、さらにそれぞれの文化やつながり、そこで生きてきた人々の素晴らしさに気づき、発信していける態度を培うための教材開発でありたいという思いをもち、平成27年度、平成29年度の2年間、同研究テーマで教材開発を試みた。

### (2) 平成29年度の教育実践「結～世界をつなぐわたしたち～」の実際

#### ①「きずなの朝顔」～愛新覚羅溥傑と浩～I

6学年の総合的な学習のテーマはキャリア教育に視点を当て、進めることとなっていた。そこで平成29年度は、日中の懸け橋となった人々の生き方を知り、自分の生き方と関わらせて考えをもつこと、学んだことを学習発表会で発信していくことをねらいとし、単元を構成していった。

虹橋校に愛新覚羅溥傑、浩が育てたという由来がある「きずなの朝顔」の種があった。しかし、6月、北京への修学旅行をひかえている子どもたちはもちろん、私を含め、教職員もその存在を知る人は少なかった。そこでこの存在を子どもたちに周知させ、教材化を図った。

学年道徳での学習後、「自分たちの手できずなの朝顔を育てたい」という子どもたちの思いから理科専科担当教諭とも協力し、朝顔を育てることになった。また、栽培委員会でも育てていくことになり、種の



きずなの朝顔 1年間の生長

存在を全校集会でも知らせることで、子どもたちはより責任をもって朝顔を育てていこうという意欲が高まった。

愛新覚羅溥傑、浩は晩年北京の北京護国寺胡同で過ごしている。修学旅行で2人の旧家近くを見学したため、積極的にガイドさんに質問している子どもたちの姿が見られ、北京をより身近に感じられた子どもたちもいた。

②「きずなの朝顔」～愛新覚羅溥傑と浩～Ⅱ（平成29年度6年9月道徳）

2学期になり、「きずなの朝顔」は花を咲かせ始めた。この朝顔の取り組みを生かしつつ、学習発表会で保護者にも発信していくこととした。そこで、「きずなの朝顔」を育てた愛新覚羅溥傑と浩の生き方を知り、自分の生き方を見つめる道徳の教材化を図った。学習後、特に多文化家庭の子どもたちの考え方に変化をもたらすことができた。母親が中国人であるA子の振り返りでは、以下のように記されていた。

～私は中国と日本の子どもなので、愛新覚羅溥傑、浩のように両国を想って、日本と中国のかけ橋になればいいと思います。また、二人のように互いを思いやる気持ち「相依為命」な心をもって生きていきたいなと思いました。～

A子は5年生の冬、日本から転入してきていた。日本で生活している間、母親に対し、「友達の前で絶対に中国語を使わないで」と言っていたと母親から聞いていた。この学習後、A子は自分の中に中国人の血が流れていることを受け入れられるようになり、さらにはいつか両国の懸け橋になりたいという、強い思いをもつようになった。

③上海読本から

・「中国のために貢献した遣唐使～阿倍仲麻呂～」(平成29年度6年9月道徳)

阿倍仲麻呂の学習では、仲麻呂は帰国を果たせなかったが、中国のために最後まで尽力したポジティブな考え方に共感し、自分も積極的に取り組んでいきたいという考えをもたせることができた。友達との関わり方で悩みをもっていたあるB子の振り返りはこう記されていた。

～私の性格を一言でいうと「ネガティブ」、「地味」です。それに対して阿倍仲麻呂は「前向き（ポジティブ）」、「責任感」があります。それは「日本人の誇り」とも言えます。誰からも好かれて前向きな仲麻呂のように、わたしもこれからはなるべくポジティブに、いろいろなことに積極的に取り組みたいと思います。～

B子は4年生夏、日本から転入してきた。周囲の様子を見ていつも行動し、特に高学年からは人の前に出ることを避けていた。この学習後、卒業式実行委員に立候補し、クラスをリードする活躍をみせた。

・「真の仏教を伝えようとした開祖～鑑真和上～」(平成29年度6年9月道徳)

鑑真和上の学習では、仏教には国境がないこと、仏教を信じるもの同士で助け合っている姿に共感できたこと、さらに、あきらめないことの大切さを学ばせることができた。学習発表会実行委員に立候補したC男の振り返りでは以下のように記されていた。

～鑑真のようにあきらめない人、何度も挑戦する人になりたい。鑑真は外国のため、仏教には国境はない、同じ仏教を信じている国どうし、助け合う心もいいと思った。～

C男は学校でも家庭学習でもこつこつと学習を積み上げていくことが出来る子どもだった。だからこそ、何度も日本へ渡ることをあきらめない鑑真の姿に強く共感したと思われる。

(3) 極★学習発表会「結～世界をつなぐわたしたち～」

これらの学習を生かし、学習発表会「結～世界をつなぐわたしたち～」を創っていくこととした。

道徳だけでなく、国語科では教科書教材の詩「生きる」の他、短歌・漢詩の挿入、音楽科では音楽専科担当教諭の指導の下、教科書教材の「越天楽今様」「ふるさと」「茉莉花」の他、器楽「奇跡」「木星」合唱曲「COSMOS」等にも取り組んでいった。

また、発表会を子どもたちが創り上げるために、実行委員の他、台本作成、楽器の演奏、挿入ビデオ作成、学習のあしあと作成・装飾を係として分け、学活の時間だけでなく、休み時間も使って自主的に活動を展開していくことができた。

6年生最後の運動会からわずか1ヶ月半の学習発表会、しかも途中に国慶節休みが入るというハードなスケジュールの中、子どもたちは学習で積み上げてきたことを全学年の子どもたちと保護者に伝えようと、休み時間もそれぞれの担当で自主的に、一生懸命に練習に励む姿が見られた。単元を進めていくにあたり、子どもたちとはもちろん、

6年部教職員・中国語教師と共に創り上げていくことができた。

発表会後は、子ども自身が積み上げてきたことを発信できたという達成感を得ることができ、大きな自信につながった。

学習発表会后、参観して頂いた保護者からアンケートをとったが、どの保護者からも高い評価を得ることができた。6年生が育てた「きずなの朝顔」の種は、毎年各学年が行っている現地校交流の際に、プレゼントとして渡そうということになり、愛新覚羅溥傑、浩の平和を願う気持ちを受け継ぐことができた。

この1年間の取り組みを通して、子どもたちに「日中の懸け橋となった人々」の生き方を学び、自分の生き方を考えさせ、子どもたち自身に「日中の懸け橋」であるという自覚を培い、その第一歩を踏み出したという実感をもたせることができた。さらに学習の集大成を学習発表会という場で、全校子どもたち・教職員・保護者へ発信できたことは大変意義深いものとなった。

### 3. おわりに

日本人学校の子どもたちは、将来日本と海外の懸け橋として活躍する。将来、子どもたちがこの教材で学んだことをこれからの生き方に生かし、国際社会を舞台に、日本人として大きく羽ばたいてくれることを期待している。

大変恵まれた環境の中で、上海で生活する子どもたちのために全国のいろんな国から集まった同僚と、3年間も仕事に従事できたことを心から感謝している。この経験を生かし、今後赴任する地域でも、その地域に活躍した先人達の功績を学び、子どもたちに伝えていけるよう励みたい。

| 極★学習発表会「結～世界をつなぐわたしたち～」 2学期単元計画案   |  |   |   |
|--|--|---|---|
| 学習発表会 11月8日  |  |   |   |
| ○「日中の懸け橋となった人々」の生き方について知り、自分の生き方と関わらせて考えをもつことができる。<br>○これまでの学習を生かしてみんなで発表を創り上げ、発信できるようにする。 |  |   |   |
|  | 主な活動   | 各教科・道徳・学活・音楽との関連  |   |
| 11月4日  | <p>◎「日中の懸け橋となった人々について学ぼう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>阿倍仲麻呂・・・・・・・・短歌挿入</li> <li>鑑真・・・・・・・・漢詩挿入</li> <li>愛新覚羅溥傑・浩・・・・・・・・和歌・漢詩挿入</li> </ul> | <p>&lt;道徳2or全&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>阿倍仲麻呂</li> <li>鑑真</li> <li>愛新覚羅溥傑・浩</li> </ul> <p>&lt;国語全&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>詩「生きる」</li> </ul> <p>&lt;道徳1&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分のできること</li> <li>やりたいこと</li> </ul> | <p>&lt;音楽&gt;</p> <p>9月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●合唱曲発表</li> <li>○クラス合唱</li> <li>・越天楽吟様</li> <li>・心るさと</li> <li>・何日君再来</li> <li>・茉莉花</li> <li>・新心るさと</li> <li>◎学年合唱・合奏</li> <li>・COSMOS</li> <li>・合奏「碇碇」</li> <li>・合奏「木星」</li> <li>●ピアノ楽譜配付</li> <li>オーディション日程告知</li> </ul> |
| 11月10日   | <p>◎学習発表会「結」オリエンテーション</p> <p>愛新覚羅溥傑・浩についてふり返り、他にも「日中の懸け橋となった人々」がいることを知り、調べていく活動を生かして、学習発表会につなげていけるようにする。</p> <p>以下に示す人物については道徳で学習する。</p>                   | <p>&lt;学活1&gt;</p>  | <p>運動会后</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●合奏のオーディション告知→実施</li> <li>●ピアノオーディション実施</li> <li>●クラス曲決め</li> </ul>  |

「結～世界をつなぐわたしたち」2学期単元計画案の一部